

【法学部 ディグリー・ポリシー】

岡山大学法学部は、学部の教育目標に基づき、所定の期間在学し、かつ、学部の定める授業科目の履修を通じて所定の単位を取得し、以下のディグリー・ポリシーに掲げる能力および資質等を修得していると確認された者に対して、学士の学位を授与する。

人間性に富む豊かな教養【教養】

グローバル化が進む現代社会に対する深い理解とともに、国家、行政、企業、学校、家庭その他様々な社会集団、社会活動に起因する諸問題に対して、柔軟かつ適正な判断を行うための論理力、分析力、創造力を身につけ、多角的な視野から柔軟かつ適正な判断ができる。

リーガル・マインドの涵養【専門性】

法や政治等に関する実践的課題に対応できる法的思考能力(リーガル・マインド)を身につけ、持続可能な社会の実現への貢献を目指して、具体的な問題に解決策を提示することができる。

情報を科学的に分析する能力【情報力】

グローバル化が進む現代社会の諸問題について、歴史的および国際的な視野から多角的に捉えるとともに、法学および政治学等の知識を活用して科学的に分析、判断し、取り組むべき具体的な課題を明らかにすることができる。

コミュニケーション能力【行動力】

多様性や包摂性といった共生・共創のための国際感覚とともに、グローバル化および情報化する社会で多様な人々と協働して活躍できるコミュニケーション能力を身につけ、持続可能な社会の実現に向けて、自らの意見を論理的に展開し、的確に行動することができる。

課題を発見し、自ら判断し解決しようとする意欲と能力【自己実現力】

持続可能な社会の実現に向けて、現代社会に生起する諸事象から法学および政治学に関連する課題を発見し、生涯にわたって自己と他者または社会とのつながりの中で調和を保ちつつ、自ら判断し解決しようとする姿勢と解決のための基礎的な能力を身につけている。

【法学部 カリキュラム・ポリシー】

法学部法学科には、昼間に授業を行う「昼間コース」と主として夜間に授業を行う「夜間主コース」が置かれています。本学部の教育課程は、国際社会や地域社会の多様な課題に取り組むことができ、かつ、人間性に富む基礎的教養の修得を目標とする教養教育科目および社会の実践的課題に対応できる法的思考力(リーガル・マインド)の修得を目標とする専門教育科目から編成されており、持続可能な社会の実現に貢献できる人材育成を企図しつつ、学生の皆さんが、自分の関心や目的に沿って、法学・政治学を効果的に学ぶことができるように、多様性のある教育科目が段階的・体系的に編成されています。

まず法学科昼間コースでは、1年次に入門科目を中心とした「法政基礎科目群」を、2年次には「法政共通科目群」を、3・4年次には「グローバル法政科目群」を配当し、これらをすべての学生が履修する科目群として位置づけています。また、主に3年次以降に配当される専門科目については、公務員を目指す「公共法政コース」、民間企業を目指す「企業法務コース」および法律専門職を目指す「法律専門職コース」の3つの履修コースにそれぞれコア科目を置き、学生の皆さんの体系的な学習をサポートしています。

昼間コースでは、法学・政治学についての理解を深め、様々な問題を発見する能力、自ら考え表現する能力、共に考えるコミュニケーション能力を養うことを目的とする少人数教育を各学年で実施しています。1年次生には、学生生活上のガイダンスを兼ねた法学・政治学の入門のための少人数科目として「法政基礎演習」が開講されています。2年次に開講される「演習Ⅰ」では、法学・政治学の主要な分野について、参加者の個別報告と討論を通じて、3・4年次での学習を進

めるための基礎づくりの場を提供します。「演習Ⅱ」は、既に一定の学習を進めた3・4年次生のための演習で、法学・政治学の様々な専門分野について、少人数での報告と討論を通じて、講義で得た専門的な知識をさらに深めていくことができます。

法学科夜間主コースの教育課程は4年間一貫教育で、1年次から専門科目を履修することができ、4年次まで系統立った学習ができるよう配慮された科目配当がなされています。本コースでは、地方創生の中心を担う人材育成を目的とする「地域法政プログラム」を設けており、2年次および3・4年次には「共通科目」の設置など、本学部と経済学部の相互履修を標準とするカリキュラムを導入しています。また、1年次に「法政基礎演習」、3・4年次に「演習」が開講されるほか、多くの授業が少人数クラスで行われています。専門科目については、45単位まで昼間コースの講義を履修することができ、多様な学習環境に応じたカリキュラムを選択することができるようになっています。

法学部法学科では、すべての科目について授業の概要、学習目的、到達目標、授業計画、成績評価方法を明記したシラバスを示しています。これによって学生のみなさんは、自らの将来設計に基づいて適切な科目履修を行うことができます。

教養教育科目および専門教育科目の成績評価においては、試験、レポート、授業中の報告・発表、授業への参加状況など授業の形態に応じて組み合わせた方法によって、法学および政治学その他当該科目に関する基礎的知識を修得していること、修得した知識を活用して問題を発見・解決するために必要な思考力、判断力、分析力、発信力を身に付けていることが厳格に判定されます。

人間性に富む豊かな教養【教養】

- 教養教育科目として、導入教育科目、知的理解科目、実践知・感性科目、汎用的技能と健康科目、言語科目、高年次教養科目を開講します。
- 制度や組織等の基礎にある社会、生命、および自然に関する知識や考え方を深め、現代社会が提示する多様な問題への関心呼び起こすために、知的理解科目、高年次教養科目を開講します。
- 豊かな感性を育み、現代社会の諸問題を多角的に捉える基盤を形成し、公正な判断力と倫理観を高めるために、実践知・感性科目、導入教育科目、高年次教養科目、法政基礎科目群を開講します。

リーガル・マインドの涵養【専門性】

- 法や政治等に関する実践的課題に対応できる法的思考能力(リーガル・マインド)を身につけ、具体的な問題に解決策を提示することができるようになるために、法学・政治学を学ぶ専門教育科目を開講します。
- 国家や社会の制度や運営に必要な法学、政治学の基礎的な知識を修得するために、講義科目を開講します。
- 講義科目で得た専門的な知識を具体的な問題に適用するとともに、さらに深い理解と知識の修得を実現するために、演習科目を開講します。

情報を科学的に分析する能力【情報力】

- 現代社会の諸問題を歴史的、国際的、比較法的な視点から分析するために必要な基礎的知識を修得するために、グローバル法政科目並びに法および政治の歴史や哲学に関する専門教育科目を開講します。
- 法学および政治学の知識を活用して、現代社会の諸問題を科学的に分析、判断し、取り組むべき具体的な課題を明らかにする実践的な能力を修得するために、自ら資料を収集し、その成果の報告に基づいて討論を行う演習科目を開講します。

コミュニケーション能力【行動力】

- グローバル化および情報化する社会において、多様な世界観を理解し、様々な価値観を尊重しながら、自らの意見を論理的に展開する能力を修得するために、実践知・感性科目および双方向型の演習科目を開講します。

● 多様な価値観を有する人々と協働して活躍できるコミュニケーション能力と、そのために必要な実践的スキルと基盤を修得するために、言語科目および汎用的スキルと健康科目を開講します。

課題を発見し、自ら判断し解決しようとする意欲と能力【自己実現力】

● 自らが直面する問題に向き合い、自ら解決する意欲を高めるために、幅広い知的理解科目および専門教育科目を開講します。

● 自らの将来設計に基づいて順序立てて学修を進め、各自が将来直面しうる法学および政治学に関連する課題を発見し、それを創造的に解決する意欲と能力を身につけるために、講義科目を体系的に展開します。

● 課題解決に向けて自ら調査を行い、論理的に調査の結果を報告し、議論を通して創造的な解決策を検討する能力を身につけるために、演習科目を開講します。

【法学部 アドミッション・ポリシー】

教育内容・特色

持続可能な社会の実現に向けて、現実社会で生起する諸課題に対して柔軟かつ適切な判断を行うため、法学および政治学を学ぶことを通じて、以下の能力の発展・向上を目指します。

1. それぞれの法分野について基礎的な知識と理論を修得し、論理的かつ合理的に課題を解決できる法的思考能力(リーガル・マインド)
2. 政治や社会について多角的な視点から理解し、現代社会に生起する諸課題を自ら発見し解決しようとする意欲と能力
3. 国際社会に関する理解をもち、グローバル化・情報化する社会で活躍できるコミュニケーション能力と情報活用能力

求める人材

高校までの学習を通じて形成された学力を重視しつつ、以下のような資質をもった学生を求めます。

1. 社会に対する広範な関心を持ち、幅広い視点から柔軟にものごとを考えようとする人
2. 自ら課題を発見し、ねばり強く考え、自ら判断していこうとする人
3. 持続可能な社会の実現といった世界の動きに関心があり、グローバルな視点をもって活躍したいという意欲のある人

また、将来の職業との関係では、裁判官、検察官、弁護士などの法律専門職や公務員、民間企業などで活躍することを志望する学生を歓迎します。

入学後の学修のため、国語・外国語の2教科を中心に読解力、思考力、表現力を養い、まんべんなく基礎学力を積み上げ、着実に学習する態度を身につけていることが望まれます。

入学者選抜の基本方針

法学部での学習にあたっては、世界への関心を持つと同時に、自分の考え方とは異なる考え方を含めて様々な考え方について、思いつきや感覚的な判断に終始するのではなく、理論的に検討しつつ再構成してゆく作業を着実に進めることが求められます。こうした資質があるかどうかは、高校までの学習を着実に積み上げてきた結果としての学力を基本にして判断されます。

【法学部法学科(昼間コース) アドミッション・ポリシー】

教育内容・特色

持続可能な社会の実現に向けて、現実社会で生起する諸課題に対して柔軟かつ適切な判断を行うため、法学および政治学を学ぶことを通じて、以下の能力の発展・向上を目指します。

1. それぞれの法分野について基礎的な知識と理論を修得し、論理的かつ合理的に課題を解決できる法的思考能力(リーガル・マインド)
2. 政治や社会について多角的な視点から理解し、現代社会に生起する諸課題を自ら発見し解決しようとする意欲と能力
3. 国際社会に関する理解をもち、グローバル化・情報化する社会で活躍できるコミュニケーション能力と情報活用能力

求める人材

高校までの学習を通じて形成された学力を重視しつつ、以下のような資質をもった学生を求めます。

1. 社会に対する広範な関心を持ち、幅広い視点から柔軟にものごとを考えようとする人
2. 自ら課題を発見し、ねばり強く考え、自ら判断していこうとする人
3. 持続可能な社会の実現といった世界の動きに関心があり、グローバルな視点をもって活躍したいという意欲のある人

また、将来の職業との関係では、裁判官、検察官、弁護士などの法律専門職や公務員、民間企業などで活躍することを志望する学生を歓迎します。

入学後の学修のため、国語・外国語の2教科を中心に読解力、思考力、表現力を養い、まんべんなく基礎学力を積み上げ、着実に学習する態度を身につけていることが望まれます。

入学者選抜の基本方針

・一般選抜(前期日程)

5～6教科の大学入学共通テストを課し、大学入学後の学修に必要な基礎学力を評価します。2教科の個別学力検査では、国語・外国語を課し、法学・政治学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度と応用能力を評価します。

・総合型選抜

国語・外国語の2教科の大学入学共通テストを課し、大学入学後の学修に必要な基礎学力を評価します。書類審査では、調査書、自己推薦書を通して、自己表現力や学習意欲を総合的に評価します。また、ペーパーインタビューにより、社会への関心や思考力、判断力、行動力、自己表現力など法学・政治学を学ぶ上での適性を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本留学試験を課し、基礎的な日本語能力および基礎学力を評価します。小論文では、法学・政治学を学ぶ上で特に重要な、読解能力、論理的思考力、表現能力を評価します。また面接により、大学で学ぶ専門領域についての関心と自己表現力や意欲など法学・政治学を学ぶ上での適性を総合的に評価します。

・国際バカロレア選抜

書類審査により、成績評価証明書、自己推薦書、評価書を通して、基礎学力、自己表現力、意欲を評価します。

学力の3要素対応表

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
一般選抜(前期日程)	◎	大学入学共通テスト	○	個別学力検査(国語, 外国語)	☆	調査書
総合型選抜	○	大学入学共通テスト	◎	ペーパーインタビュー, 調査書, 自己推薦書	○	ペーパーインタビュー, 調査書, 自己推薦書

(注)◎は特に重視する要素, ○は重視する要素, ☆は総合的な判断となる要素

各要素に対する資料は、「主とする資料」であり、それ以外の要素でも活用する場合がある。

【法学部法学科(夜間主コース) アドミッション・ポリシー】

教育内容・特色

持続可能な社会の実現に向けて、現実社会で生起する諸課題に対して柔軟かつ適切な判断を行うため、法学および政治学を学ぶことを通して、以下の能力の発展・向上を目指します。

1. それぞれの法分野について基礎的な知識と理論を修得し、論理的かつ合理的に課題を解決できる法的思考能力(リーガル・マインド)
2. 政治や社会について多角的な視点から理解し、現代社会に生起する諸課題を自ら発見し解決しようとする意欲と能力
3. 国際社会に関する理解をもち、グローバル化・情報化する社会で活躍できるコミュニケーション能力と情報活用能力

求める人材

高校までの学習を通じて形成された学力を重視しつつ、以下のような資質をもった学生を求めます。

1. 社会に対する広範な関心を持ち、幅広い視点から柔軟にものごとを考えようとする人
2. 自ら課題を発見し、ねばり強く考え、自ら判断していこうとする人
3. 持続可能な社会の実現といった世界の動きに関心があり、グローバルな視点をもって活躍したいという意欲のある人

また、将来の職業との関係では、裁判官、検察官、弁護士などの法律専門職や公務員、民間企業などで活躍することを志望する学生を歓迎します。

入学後の学修のため、国語・外国語の2教科を中心に読解力、思考力、表現力を養い、まんべんなく基礎学力を積み上げ、着実に学習する態度を身につけていることが望まれます。

入学者選抜の基本方針

・一般選抜(前期日程)

3～4教科の大学入学共通テストを課し、大学入学後の学修に必要な基礎学力を評価します。2教科の個別学力検査では、国語・外国語を課し、法学・政治学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度と応用能力を評価します。

・総合型選抜

国語・外国語の2教科の大学入学共通テストを課し、大学入学後の学修に必要な基礎学力を評価します。書類審査では、調査書、自己推薦書を通して、自己表現力や学習意欲を総合的に評価します。また、ペーパーインタビューにより、社会への関心や思考力、判断力、行動力、自己表現力など法学・政治学を学ぶ上での適性を総合的に評価します。

・社会人選抜

書類審査・小論文・面接を課します。書類審査では、大学で学ぶ専門領域についての関心、学習意欲を評価します。小論文では、法学・政治学を学ぶ上で特に重要な、読解能力、論理的思考力、表現能力を評価します。また面接により、大学で学ぶ専門領域についての関心と自己表現力や意欲など法学・政治学を学ぶ上での適性を総合的に評価します。

学力の3要素対応表

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
一般選抜(前期日程)	◎	大学入学共通テスト	○	個別学力検査(国語, 外国語)	☆	調査書
総合型選抜	○	大学入学共通テスト	◎	ペーパーインタビュー, 調査書, 自己推薦書	○	ペーパーインタビュー, 調査書, 自己推薦書

(注)◎は特に重視する要素, ○は重視する要素, ☆は総合的な判断となる要素

各要素に対する資料は、「主とする資料」であり、それ以外の要素でも活用する場合がある。